

令和2年度第1回高松市子ども・子育て支援会議 事前に提出いただいた御意見等

【全体について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	<p>評価の指標が客観的ではないと分かりにくい（評価しづらい）。</p>	<p>事業内容によっては、客観的な評価が困難な場合もございますが、事業計画の作成時に、可能な限り、数値等の客観的な指標設定に努めるなど、今後、評価の在り方について検討してまいりたいと存じます。</p>
2	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、目標達成できない事業が多いと思われるが、目標数値は現在のままとするのか。 今年度のみ目標設定を行うとすると、いつ、どこで行うのか。</p>	<p>第2期計画の数値目標につきましては、計画期間（令和2年度～令和6年度）全体を通して事業の推進を図り、計画最終年度（令和6年度）に達成を目指すものとして設定しております。</p> <p>御指摘のように、目下、各事業の実施に当たり、新型コロナウイルス感染症の影響も受けておりますが、個々の事業によって状況も異なりますことから、現段階においては、計画全体を通して、目標値の変更は予定しておりません。</p> <p>一方、資料2における令和2年度の事業内容（計画）につきましては、調査時点（本年6月）の内容を記載しており、中には、既に、感染症の影響を織り込んで計画を設定しているものもございます。</p> <p>その計画に基づき、事業の実施に当たり、各事業担当課において、その時々状況を踏まえ、柔軟に対応してまいりたいと存じます。</p> <p>なお、次年度において、今年度の取組事業の推進状況の取りまとめの際には、これらの状況を加味して評価してまいりたいと考えております。</p>
3	<p>全体を通して、乳幼児から中学生までの子どもに対する施策（事業）は多方面からのアプローチがなされていると感じるが、支援に該当するはずの高校生へのアプローチが金銭面に傾向しており多様性にかけているのではと感ぜられる。 資料作成において、現状の事業系列に整列したものに加え、対象者系列にカテゴリー分けしたものがあれば分かりやすいのではないかと。</p>	<p>御意見を踏まえまして、今後の施策の実施や資料作成について検討させていただきます。</p>

【資料1-1について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	No. 97 年長児童の赤ちゃん出会い・ふれあい交流事業について 中学生が対象であれば、年長児童ではなく、生徒という呼び方が適切ではないか。 評価5の理由は。(母数(市内全中学)の対比であれば、評価5ではないと思われるため。)	事業名の「年長児童」という語句につきましては、国において、中学生・高校生等を指すものとして使用されておりますが、一般的な表現ではないことから、今後、表記の見直しについて検討してまいりたいと存じます。 評価の理由につきましては、希望する中学校14校すべてで実施できたため、評価「5」としているものです。
2	No. 180 地域子育て支援拠点事業について 評価4の理由は。 また、更なる取組みで評価5を目指すなら、更なる取組みイメージを聞かせてほしい。	評価内容に誤りがあったため、修正後の資料を配布させていただきますので、差替えをお願いいたします。
3	No. 181 子育て集会室“夢てらす”事業について 人件費22,344千円は、1名分の人件費であると思われるが、どのような役割を担っている人員であるのか知りたい。	人件費は、非常勤嘱託職員7名及び短期臨時職員の人件費です。 非常勤嘱託職員は3階子育て支援ゾーンの企画運営を行っています。 短期臨時職員は、土・日・祝日等の繁忙期のフロアスタッフです。
4	No. 190 一時預かり事業について 評価5の理由は。 預かり希望者の母数に対して、実際に預かることができた子どもの数で見たときに、100/100だったのかどうか。	毎年、一時預かり事業を実施する施設を増やし、お預かりできる受け皿を増やしています。 また、短時間でも子どもを預けることにより、急用に対応できたり、在園児と一緒に遊べたり、利用者の満足度は高くなっているため、評価「5」としているものです。 しかしながら、利用希望が集中し、日程の変更を依頼することもあり、少なからず、利用者の希望に添えていないことは、今後の課題でございます。

【資料1-2について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	No. 33 保育士確保緊急対策事業について 保育士確保の市独自の政策があれば教えてほしい。	待機児童の解消に向けて、次の緊急対策事業を実施しています。 ①潜在保育士への就職支援 (転居等の準備費用を補助) ②保育実習旅費の支援 (県外学生の保育実習参加旅費を補助) ③新卒保育士への一時金支給 (新規採用保育士の継続勤務期間に応じて一時金を交付) ④保育士宿舍借上げ支援 (保育士用の宿舍借上げ費用を補助)

【資料1-3について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	<p>令和元年度の0歳児の実績について</p> <p>1352（確保の内容②'）-1604（量の見込み（実際の需要量）①'）=▲252とあるが、252人の0歳児はどうなったのか。</p> <p>保育されなかったということか。認可外保育施設へ行ったのか。</p>	<p>御質問の件につきましては、令和元年度（平成31年度）の0歳児クラスには、前年度である平成30年度に生まれた子どもと、令和元年度（平成31年度）に新たに生まれた子どもがともに令和元年度末まで在籍することから、年度末にその需要量が増加したものでございます。</p> <p>このことにより、希望する認可施設の利用ができず、家庭で保育をしたり、認可外保育施設などを御利用される方もいらっしゃいますが、次年度当初である令和2年4月においては、多くの方が認可施設の0歳児クラス又は1歳児クラスの利用が可能となっております。</p>

【資料2について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	<p>No. 38 食に関する情報発信事業（保育所等）について</p> <p>ホームページにおいて、食育に関する情報を提供し、幼稚園、保育所等及び地域の人々へ食育を推進するとあるが、はたしてホームページを見て利用しているのか分からない。</p>	<p>こども園運営課食育ホームページでは、保育所等における食育の取組紹介を毎月更新しており、保育所やこども園を利用している家庭に毎月配付している「給食献立表」を活用して当該ホームページを紹介するなど、機会を捉えて、周知に努め、利用を促しております。</p> <p>また、各施設においても、食育を目指すクッキング活動やレシピの作成・情報発信など、各種の実践が図られているところでございます。</p>
2	<p>今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、あまり事業も実施できない状況だと思う。</p> <p>資料2においても、「中止」という事業があるが、代替案はないのか。</p>	<p>イベント・行事等については、「高松市主催のイベント・行事等開催基準」に基づき、開催を決定しております。</p> <p>代替案といたしまして、例えば、No. 96 卸売市場見学につきましては、市HPやSNSを通じて、市場の仕組み・魅力について情報発信を強化していくことなどに取組みたいと考えております。</p> <p>また、No. 105 親子下水道教室につきましては、IKODE瓦町におきまして、3密の状況を招かないよう十分に配慮した上で、9/10（木）～16（水）の間、子どもを含めた全ての市民の皆様を対象とした「たかまつの下水道展（仮称）」を実施することにより、本市下水道事業の周知啓発を図ることとしております。</p> <p>さらに、No. 107 下水道施設見学につきましては、各下水処理場の概要及び下水処理の仕組みなどをホームページに掲載し、周知啓発を図っているところであり、施設見学についての問い合わせがあった際にはホームページを御案内していきたいと考えております。</p>

【資料3-1について】

No.	御意見・御質問等	回答
1	<p>No. 13 教育相談・就学指導対策について</p> <p>不登校の状態にある子ども及び発達障害にある子どもの数（母数）を知りたい。（事業内容に「不登校の状態にある子どもや発達障害のある子ども等に係る教育相談を実施する。」とあり、実績に「延べ97件」の相談を行ったとあるが、母数が分からなければ、その数字の妥当性を計れないため。）</p>	<p>平成31年度における不登校児童生徒は約500名で、特別支援学級在籍の児童生徒と通常学級の在籍で発達障がい診断を有する児童生徒を合わせた数は約1,900名であります。</p> <p>ただ、教育相談を希望する保護者等につきましては、不登校傾向や発達障がい傾向の児童生徒も含まれますことから正確な母数については、把握しにくいものであります。</p>
2	<p>No. 14 放課後子ども教室事業について No. 15 一体型の放課後児童クラブ及び子ども教室の推進事業について</p> <p>計画通りに進まない理由を知りたい。（計画数値の見直しが必要かどうかも含めての検討材料として。） 放課後児童クラブの増加に伴い、子ども教室のニーズ自体が減っているのか否か知りたい。</p>	<p>当事業は、地域で組織する運営委員会を委託先として実施しておりますが、地域での担い手不足が課題となっており、教室の新規開設や一体型の推進が進んでいないのが現状であります。</p> <p>なお、昨年度において、放課後子ども教室の利用児童数は減少しましたが、登録人数は増加しておりますことから、その原因は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられ、ニーズ自体が減少しているものではないと認識しております。</p> <p>また、放課後子ども教室は、ほとんどの校区において、週1回又は2回程度の事業実施でございまして、ほぼ毎日、保護者が家庭にいない児童を預かる放課後児童クラブの増加が、子ども教室のニーズの低下につながっている可能性は低いと考えております。</p>
3	<p>No. 38 自立相談支援事業について</p> <p>なぜ情報提供のみとなっているのか。理由を知りたい。</p>	<p>生活困窮者からの相談内容に応じ、必要な場合には、支援プランを作成しておりますが、すべての相談案件が支援プラン作成を要するものではございません。</p> <p>例えば、借金についての相談であれば、支援プラン作成ではなく、無料相談先（法テラス）を紹介する等の情報提供に留めることで、相談者のニーズにスムーズに対応できることが多くございます。</p>
4	<p>No. 40 母子生活支援施設管理運営事業について</p> <p>評価4の理由が読み解けない。担当課の見解を知りたい。</p>	<p>母子生活支援施設では、入所者の自立促進のための生活支援を行っています。その一環として、入所者に自立に向けた目標を立てていただき、定期的に職員と面談を行い、その達成状況や今後の方針等について、話し合いを行っています。</p> <p>多くの入所者は、短期目標は達成できていることから、一定の成果は上がっていると考えておりますが、長期的な目標の達成及び自立に向け、引き続き支援を行っていく必要があると考え、評価4としました。</p> <p>今後も、入所者の自立に向けて、個別的な支援を行ってまいりたいと存じます。</p>
5	<p>No. 58 相談事業（女性こころの相談）について</p> <p>相談実績414件は、延べ件数なのか、人数なのか知りたい。 評価4の理由は。</p>	<p>相談実績については、延べ件数です。</p> <p>女性こころの相談については、自分自身のこと、夫婦、家族、その他の対人関係、労働問題、DV被害、子どもの問題など相談内容は多岐にわたっており、一人一人が直面する様々な問題について、専門相談員が話を聞くことで解決への糸口を一緒に考えていくものでございます。</p> <p>また、相談内容に応じて、適切な関係機関との連携を図っているほか、「話を聞いてくれてうれしかった」などのお声を多くいただいていることから、評価を「4」としたものでございます。</p> <p>今後とも、相談を促す広報・啓発により悩みや被害の潜在化を防止するとともに、専門相談員の研修の充実等により相談対応のスキルアップに努めてまいります。</p>